平成 24 年度後半期東北連合産科婦人科学会役員会　議事録

日時:平成 25 年 3 月 3 日(日)　11:00～

会場:江陽グランドホテル 4 階「銀河の間」

東北連合産科婦人科学会役員会　議事録

1. 議長選出(野田)

野田:それでは定刻になりましたので，平成24年度後半期東北連合産科婦人科学会役員会を始めます。通例により常任委員長である八重樫が会の進行を担当させていただきますが、よろしいでしょうか？

→　一同了承

八重樫先生よろしくお願いします。

2. 開会の挨拶(八重樫)

3. 報告事項

⑴新名誉会員該当者、新功労会員推薦者(資料 1)　　野田　隆弘

野田:それでは資料1をご覧下さい。新名誉会員の該当者として岡村洲博先生を名誉会員選考委員会へ報告させていただきます。また、新功労会員として　幡研一先生　高林俊文先生

中川公夫先生、和田裕一先生を推薦いたします。

→一同了承。藤森、八重樫両氏、新功労会員推薦者を紹介。

⑵日産婦学会専門医制度中央委員会報告(資料 2)　　永瀬　　智

永瀬:　専門医制度試験の日程報告について報告資料2で説明。　地方部会別新規専門医の登録状況について解説。男性は従来通りほぼ横ばいであった。　一方、増加傾向にあった女性医師は頭打ちになってきた。　外科に進む女性医師が増えている。

八重樫:　理事会でも女性医師数が減少傾向にあるのではないかとの見方をしている。

⑶日産婦学会理事会報告(資料 3)　　水沼　英樹、八重樫　伸生

八重樫:

(ⅰ)新規専門医認定に関して第三者機関による認定を検討中。と厚生労働省より。

(ⅱ)平成26年度より専門医資格の更新に診療指導実績報告書の追加を検討中。

(ⅲ)平成26年度より指導医としての資格要件の案が出ている。　5月の札幌の日本産婦人科学会で最初の指導医講習会の予定。　詳細は倉知先生から。　学会の出席確認、従来のシール式から IC カードに変わる方向。

水沼:

（ⅳ）母体血による出生前遺伝子診断の指針案。 適応を列挙。 この中で35歳以上を適応とする。との案にパブリックコメントでの反論があった。今後、理事会で認められれば公開する予定

（ⅴ）用語集編集の進展状況。

（ⅵ）日本産婦人科学会が保持している臨床データの利用について。

倉知：指導医制度についての追加事項あり。 指導医制度認定機構より、指導マニュアルと指導医認定基準についてコメントあり。 臨床指導医とは日常診療で研修医を手取り足取り指導する立場と位置づけている。

小田：臨床指導医資格の更新要件について。管理職の医師は資格の更新に足る臨床経験の時間が割けないのでは？

(4)第 135 回東北連合産科婦人科学会総会並びに学術講演会の準備報告（資料 4）　　金杉　浩

金杉：平成25年6月8日9日、山形で東北連合産科婦人科学会開催します。 進捗状況について説明。現在のところ27題の演題が集まっておりまだ余裕がある。

(5)第 61 回北日本産科婦人科学会総会並びに学術講演会の準備報告（資料 5）　　野田　隆弘

野田：第61回北日本産科婦人科学会　・第136回東北連合産科婦人科学会　総会・学術講演会は平成25年9月7日・8日　旭川グランドホテルで開催。

(6)第 137 回東北連合産科婦人科学会総会並びに学術講演会の準備報告　　藤森　敬也

武市：会期、場所について報告

(7)その他　　協議事項なし

4. 協議事項

(1)理事候補者の選出について（資料 6）

水沼：継続性、新規性を重視し、八重樫　杉山両氏を推薦　→　一同了承

(2)監事候補者の推薦について（資料 7）

岡村氏が名誉会委員となり、後任の推薦なし　→一同了承

(3)総会運営委員会委員及び予算決算委員候補者の推薦について（資料 8-1, 8-2）

八重樫：従来通り、運営委員は宮城　予算決算委員は青森、山形、福島の各ブロックに

→一同了承

上原：4年経ったので新しい方に席を譲りたく、谷河原先生を推薦したい。

→一同了承

藤森：福島ブロックとしては、該当者なしとして辞退したい。

倉知：金杉先生を推薦

水沼：横山先生を推薦

→一同了承

(4)来年度以降の東北地区産科婦人科学会・医会連絡会について（資料 4）

金杉：　平成25年度前半期は、恒例の如く6月９日朝8時に山形にて。　後半期は3月２日日曜日に仙台で。

→一同了承

⑸第 139 回東北連合産科婦人科学会総会並びに学術講演会について（参考資料 1,2）

八重樫：宮城開催の予定。平成25年6月９日に会場を発表する。

6)その他

10月の医会の学術集会

和田：10月12日第134回産婦人科医会学術集会。中川公夫会長　仙台江陽グランホテルにて。

八重樫：名誉会員、名誉会員該当者の先生から一言

岡村：産婦人科志望の女性医師の減少について、学会でも危機感を持っている。施策の効果がなかなか上がらない　学会の常務理事会は大学関係者が主であり、臨床現場の考えが常務理事会に上がっていないのではないか？　学会、医会が膝を突き詰めて話し合えるこの会から、意見を中央に上げていきたい。

八重樫：志望者増加の方策の一つ、サマースクールを昨年盛岡で行った。東北連合の研修医会についてのコメントも。

杉山：サマースクールについて。個人的には大成功と考える。新しいことについての興味をかき立てる良い機会となった。ただ、あれだけやっても入局率が高くないことは問題視している。

寺田：サマースクールで顕微授精を担当した立場から一言。　サマースクール参加者より学会参加者のほうが入局している　入試の面接も担当しているが、入学者の産婦人科に興味を持つ人の割合が少なくなってきている様だ。

八重樫：マスコミの影響が大きいのかもしれない。

幡：　福島県より第36回性教育指導セミナー担当案内

平成25年7月28日　会津大学講堂にて　第36回性教育指導セミナーを開催。27日には公開講座あり。

以上　文責　野田隆弘